

設立十周年記念に寄せて

元副代表・幹事 福田 久典

宇部市地球温暖化対策ネットワーク設立十周年記念、誠におめでとうございます。

これもひとえに役員や事務局、会員の皆様のご尽力、ご努力の賜物と心温まる思いです。

2002年の設立時は、宇部市環境共生課の職員として、設立のお手伝いをさせていただいた一人として当時を懐かしく思い筆をとりました。

宇部市は、「産・官・学・民」が一体となり、ばいじん対策に取り組んだ「宇部方式」により国連環境計画(UNEP)からグローバル500賞を受賞し、環境省の推薦で、京都で開催されたCOP3のワークショップでは、「宇部方式」による環境の保護と改善に関する経験と手法を照会するなど、環境共生都市宇部を目指しておりました。

こうした中、「宇部方式」の手法を地球温暖化対策にも生かせないかとの前藤田忠夫市長の強い思いから、温暖化対策協議会の発足準備会を立ち上げることとなりました。

設立準備会での議論では、温暖化対策は全ての者が加害者であり被害者であることから、企業から家庭まで幅広い理解と協力が欠かせないとし、まさに「産・官・学・民」がそろって参加することが宇部方式による温暖化対策に繋がるとして、準備委員会のメンバーがそれぞれに手分けをして会員を呼び掛けることとなりました。

市と環境保全協定を締結している企業や商工会議所、山口大学等の研究機関、環境保全団体等、市でも各部署が名前を連れ、予想以上の規模でのスタートとなりました。

その後、会の活動は、BDFや太陽光発電、ノーマイカー運動などそれぞれの分科会に分かれて議論を重ねながら、今日の活動へとつながりその活動は広く県内外にも照会されるようになってきました。

今日、東北大震災を経験し、地球温暖化対策とはまた別の視点からも、太陽光発電の全量買い取り制度など再生可能エネルギーへの見直し転換が進み、多くの皆さんの省エネ意識の高まりをみております。

私たちはいつの時代においても資源を大切に省エネ活動を継続していくことは、何よりも大切なことだと考えております。

今後とも宇部市地球温暖化対策ネットワークの活動が益々発展し、次の20周年に向けてさらなるご活躍されますとともに会員皆様のご健勝をお祈りいたします。



筆者近影